

企 画 提 案 書

平成 年 月 日提出

(1) 企業又は団体名

一般社団法人 AIS プランニング

(2) 本業務に類する業務での実績 (5件以内)

1) アーティストによる市民交流事業

・アーティスト・イン・スクール事業の企画コーディネート (2005年～現在も継続中)

アーティストを地域に滞在し、小学校の空き教室にを拠点とした創作活動を行い、学校を取り巻くすべての地域住民を対象とした交流活動展開している。札幌市では「おとどけアート事業」では、これまでに24校、約6000人との交流を果たし、北海道内で約50校、約1万人以上の方々と交流を果たした。

・トヨタ・子どもとアーティストの出会い事業の事務局運営 (2010年～現在も継続中)

トヨタ自動車株式会社の社会貢献事業として実施している事業の企画・運営事務局を2010年から担当。全13都道府県に点在するのコーディネート団体とのネットワークをベースに、小学校や子どものいる現場で、アーティストのワークショップを全国規模で展開し、活動の啓発やコーディネーターの育成を行う。

2) アートによる地域活性化事業

ドピカーン観音寺 (まちづくり事業/2005年～現在も継続中)

香川県観音寺市中心市街地・商店街を舞台とした地域活性化事業。毎年、複数組のアーティストが街に滞在し、地域の人々の「集いの場」を生み出す活動、地域の魅力をアートの視点から捉え直す活動を展開している。

(その他の実績：北海道音更町中央商店街活性化事業、鳥取県倉吉市明倫地区における地域再生事業など)

3) 施設運営事業

コミュニティスペース「より(i)どこオノベカ」(2011年～現在も継続中)

札幌市中央区の山鼻地区において人々の生きがいをつなぐ集いの場となるコミュニティスペースとして運営開始。ワークショップやトークイベント、音楽ライブなどのアートによる自主イベントの開催の他、レンタルスペースとしての運営も行い、様々なアーティスト、クリエイターがその表現の場として活用している。

4) アーティスト・イン・レジデンス事業

NPO法人S-AIR(札幌市/2003～2008年)、アークプロジェクト(茨城県/2010～2011年度)など各地のアーティスト・イン・レジデンス事業のディレクション及びアーティスト・イン・レジデンスを活用した地域プロジェクトの企画・運営実績多数。

国内外のアーティスト・イン・レジデンスネットワーク活動(Res Artis、Move arts Japan、ARE:Art Round East Tokyoなど)、オランダの研究機関Trans Artistsとの共同企画、研究実績あり。

5) その他

札幌市内の文化施設、教育機関におけるアートプログラムの実施に関する調査研究や、市内の大学(北海道大学、北海道教育大学、北翔大学など)でのアートマネジメント及び市民交流プログラムに関する講師、まちづくり事業、他都市・地域のアーティスト・イン・レジデンス事業の事業設計・コンサルティング業務(千葉県:パラダイスAIR、群馬県:アーツ前橋AIR、京都市:京町家AIR、鳥取県:明倫AIRほか)の実績多数。

(3) 本業務の内容を遂行するための取組体制並びに、札幌市内に有する貴社の事務所の体制及び人員

【天神山アートスタジオでの取組体制】
 施設運営管理代表責任者1名(漆崇博)
 プログラムディレクター1名(坂口千秋/小田井真美)
 施設運営マネージャー1名(小林亮太郎)
 施設運営(選任)コーディネーター3名(石島、鈴木、中脇)
 交流事業(選任)コーディネーター2名(未定)
 運営ボランティア及びインターン約10名

```

graph TD
  A[施設運営管理代表責任者] --> B[施設運営マネージャー]
  A --> C[プログラムディレクター]
  B --> D[施設運営コーディネーター]
  C --> E[交流事業コーディネーター]
  D --> F[運営ボランティア及びインターン]
  E --> F
  
```

【札幌市内に有する弊社の事務所の体制及び人員】
 代表理事1名/理事1名
 常勤職員2名/非常勤スタッフ8名
 活動ボランティアスタッフ及びインターン約15名

(4) 実施方針

<基本方針>

- 札幌市民一人ひとりが、創造性を発揮し、生活、文化、産業、そして札幌の街に変化や活気をもたらす当事者として集い、「創造都市さっぽろ」が目指す都市の成長を支えていく市民の主体的な活動の受け皿となる場を育む。
- 国内外のアーティストやアート関係者と札幌市民との積極的な関わりを生み出す機会を創出する。
- 国内外のアーティストやアート関係者の自由且つ創造的な活動が展開し易い環境を育む。

<2014年度の達成目標>

- 地域住民との関係構築を第一に、市民交流プログラムの充実を図り、施設利用についての近隣の商店街、市民活動団体、保育園や小中学校、大学などの教育機関といった周辺地域及び札幌市内における周知を徹底する
- 施設における国際アーティスト・イン・レジデンス事業の始動に合せ、在日海外大使館、文化機関との関係を構築し、弊社が運営する既存事業及び新規の市民交流プログラムを軸に、国内外への広報活動に重点を置き利用頻度の向上させる
- 市内の文化団体及び国内のアーティスト・イン・レジデンス事業を行う事業体とのネットワークを活用した滞在スタジオ利用の誘致、交流事業の推進を図る

(5) 企画提案内容

【アーティスト等の滞在制作活動の誘致及び支援について、市民がアーティスト等と交流する機会及び芸術作品に触れる機会について、アートによる地域活性化事業について、広報について、オープニングイベントについて、業務計画】

◆企画提案の前提

グローバルな視点をもつ、超ローカルな活動 ～さっぽろ天神山アートスタジオは、だれもが当事者になるための装置～

地域社会の生活の営みの中に、アーティストのスタジオができた、という新しい状況がつくる地域の新しい日常。市民生活と創造活動、子どもと高齢者、都市と自然の間を取り持つのは、文化の相違を超えたメッセンジャーであるアーティストであり、地域の新しい日常、時間、プログラムである。

アーティストは地域の外からやってきて、一時的に地域にとどまる。これまで気がつかなかった地域のことを外の、よそものの視点で見出し、伝えようとする。

地域の新しい日常を実感するための天神山緑地のユニークな要素(地域の人々、アーティストの滞在、自然、公園、遺跡)を活かしたプログラム。アーティストと同じ場所を偶然共有すること、話す、質問する、答える、散歩する、食べる、働くといった日常レベルの交流により、地域で生きる人々にはこれまでとは違った視点を獲得する。

さっぽろ天神山アートスタジオは、国内外のアーティストの往来というグローバルな回路を開き、地域と合わさりひとりひとりが保有する多様な文化が行き交い共存している。ここでアイデア、工夫、技術の実践(＝創造性の発揮)の日常生活の場と機会が生まれる。この新しく複雑な営みの中で、ひとりひとりがサバイバルし、「変化」の当事者となる場所である。

■だれが主役か？

- 1) 周辺地域、特に子どもと高齢者、札幌市全域の広く市民、スタジオ利用アーティスト
- 2) アーティスト＝全活動分野の芸術家(美術、演劇、文芸、音楽、写真、建築、デザイン、工芸分野を含む)、またそれらの企画者、事業運営者、研究者など。*企画提案書の中で「アーティスト」は上記を指す。

■主役の活動をサポートするのは？

<プログラムディレクター>

さっぽろ天神山アートスタジオでの活動全般について内容を把握し、滞在中の活動の質を高めるアドバイスなどのアーティストサポート、コーディネーターのマネジメントへの指示などプログラムマネジメント全般の質の管理をマネージャーと協議の上、監督する。今年度は特に利用者獲得の為に国内外のネットワーキング、広報PRシステムの構築など業務全般を中心的に取り仕切る。

<施設運営マネージャー>

施設の快適且つ安全な利用を維持し、より多くの地域住民、アーティストの活用される為の広報、管理、運営を行う。施設管理のオペレーションや体制作り、地域住民との良好な関係づくり、施設運営コーディネーターのサポートの指示など施設運営に関わる全般の業務をプログラムディレクターと協議の上マネジメントする。

<コーディネーター>

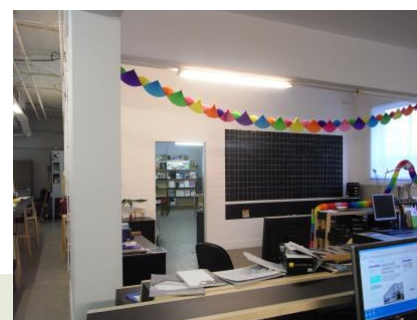
さっぽろ天神山アートスタジオのコーディネーターは、地域の人々、施設利用者と滞在アーティストとの日常的な交流、交流のためのプログラム企画運営に対して従事する。(アーティストのスタジオでの滞在制作は、基本的にセルフマネジメント&ビルドで実施される。)

<インターン・ボランティア>

主に学生や地域住民が、交流プログラムや施設運営を「研修の場」あるいは「市民活動」として、インターン・ボランティアという立場で、その運営業務に関わる。主に、コーディネーターの補佐、アーカイブ作成と管理などを担う。(地域における実践力のあるマネジメント人材の発掘と育成)

■ space design

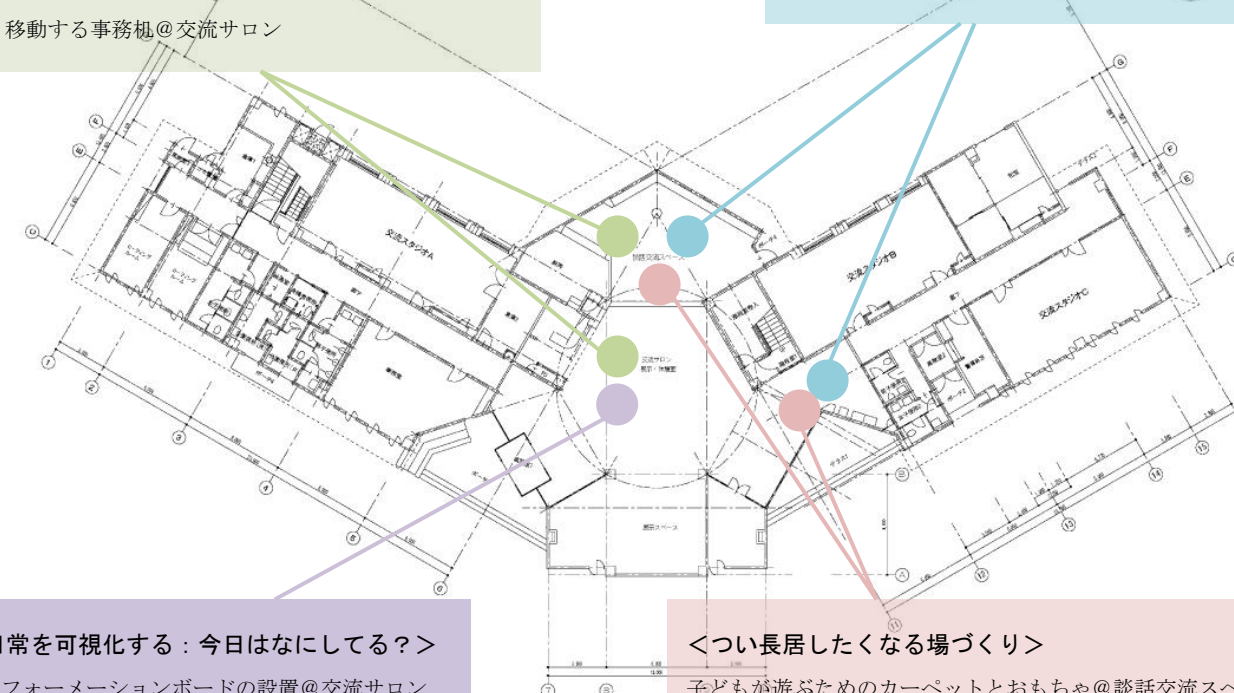
さっぽろ天神山アートスタジオの機能を発揮するための共有スペースの環境整備



<いつでも声をかけやすいオープンなオフィス>
オープンなスタッフミーティング@談話交流サロン
移動する事務机@交流サロン



<”居心地のよさ”づくりに参加する>
ソファの寄付@交流サロン、テラス前の空間
グリーンの寄付@談話交流スペース



<日常を可視化する：今日はなにしてる？>

- インフォメーションボードの設置@交流サロン
- ・ご近所情報
 - ・滞在中のアーティスト情報
 - ・札幌市内のアート情報

<つい長居したくなる場づくり>

- 子どもが遊ぶためのカーペットとおもちゃ@談話交流スペース
長居する言い訳になる本棚@交流サロン：テラス前の空間



(様式5)

◆アーティスト等の滞在制作活動の誘致及び支援

移動性、グローバル性、一時性、そしてアーティストの自律性のために

現代のアーティストの創作活動にとって重要な要素「移動性、グローバル性、一時性/ mobility, globality and temporarity」を備えた「アーティスト・イン・レジデンス」というしくみを採用し、アーティストの多様な活動を支援する手法として、滞在スタジオを整備しアーティストに創作活動の場と機会として提供する。この滞在スタジオを活用するプログラムを「アーティスト・イン・レジデンス事業」とする。その上で、対外的な施設オープン の周知を行う目的で国内外のアーティスト・イン・レジデンスのポータルサイト、ネットワークに積極的に参加する。このことにより、さっぽろ天神山アートスタジオは、国際的なプログラム運営を行う場として国内外のアーティスト、アート関係者に認知され稼動することとなる。国際的に開かれた回路を得て、専門的な視野のもとでプログラムは企画運営される。またさっぽろ天神山アートスタジオから、そして滞在スタジオを利用するアーティストらから発信する施設を起点にした活動、札幌という都市の情報はグローバルに世界を巡ることになる。

■ さっぽろ天神山アートスタジオを利用する他者との交流

アーティストは、施設を共有する他の利用者、地域の人々との日常的な交流に協力することを承諾した上で、滞在スタジオを提供することができる。さっぽろ天神山アートスタジオは、国内のアーティスト・イン・レジデンス事業においてはトーキョーワンダーサイト（16室）に次ぐ大規模施設である。そのため、同時期に滞在スタジオを利用するほかのアーティストとの交流機会が確保される国内においては貴重な環境であり、プログラム優位性となる。

■ 公募プログラムの実施

新規の施設、事業の広報PR効果を高めるため、アーティストにとって最も関心の高い情報「公募プログラム」を積極的に企画し実施する。（公募の為のプログラムテーマ、応募要項、フォームは札幌市と協議の上決定する。）

■ アーティストの自律的な活動 = セルフマネージメント&ビルド

滞在スタジオを利用するアーティストは、滞在中の制作、リサーチ、発表活動において、そのプロフェッショナルリズムを尊重するために、自律的に計画を作成し、実行することを求められる。コーディネーターは、ディレクター同席でアーティストとの協議によって、サポートの程度や頻度を見極め、あくまで必要最低限のレベルでとどめる、アーティストの自律性をさまたげることのないよう成熟したコーディネーションをおこなう。

■ アーカイブ（活動の記録と保存管理）

アーティストの滞在制作利用の蓄積がさっぽろ天神山アートスタジオのひとつの重要な実績となり財産となることから、下記アーカイブ素材（公開を前提）を滞在スタジオ利用者から回収し、編集して保存する。

① 利用者は、アーカイブツールの「**ゲストブック/guest book（仮：仕様未定）**」にポートフォリオ素材の提出をする。蓄積されるポートフォリオは、札幌市内の企画者、SIAF企画作成の際に有効に活用されることを目指す。

② 利用者は、さっぽろ天神山アートスタジオの活動の様子を情報として発信し、記録する「**天神山日記**

/Tenjinyama Diary（仮：仕様未定）」に素材提供をする。

「天神山日記：Tenjin-yama Diary」は、ご近所マップづくりを兼ねる活動としても実施される。

③ 利用者には、さっぽろ天神山アートスタジオでの滞在についてのフィードバック（レポート、アンケート形式のシート）提出をする。（運営者の事業評価、次年度以降の事業計画策定等に活用することができる）

企業又は 団体名	一般社団法人 AIS プランニング
-------------	----------------------

滞在スタジオを使用したアーティスト・イン・レジデンスプログラム（案）

アーティスト・イン・レジデンスを活用するアーティストの多くは、同時期に滞在する他者との情報交換や日常的な交流を求めている。滞在スタジオを13室保有する同施設はこの点においてアーティストの滞在における充実を満たすことができるため、運営者はニーズに応え成果を出すために同時期滞在を増やす工夫が必要だ。

<セルフファンディング・プログラム（滞在スタジオ利用経費自己負担の滞在）>

滞在時期、滞在内容を自由に設計できるメインのプログラム。滞在中に、地域及び施設利用者を対象にした企画の提案がある場合は、ディレクターと協議した上で、実施に対するコーディネーターの人的サポートを得られる場合がある。

*滞在スタジオ利用を希望するアーティストが、渡航滞在費を活動拠点国や奨学金に申請する場合の招聘状発行をする。

利用期間：1日～最大3ヶ月まで（その他、施設利用のレギュレーションに従う）

事前申し込み制：書類選考あり、スタジオ利用料/有料

実施期間：2014年8月～2015年3月/8ヶ月間

条件：さっぽろ天神山アートスタジオの他の利用者との交流に協力すること。国籍、居住地、年齢、性別、活動分野不問

<プレゼンテーション・プログラム：国際公募>

プログラム公募のテーマ設定あり。1ヶ月滞在するアーティストが、展示スペースで1週間の展示/発表をする。

■月1名（組）/合計7名（組）

■利用期間：2014年10月～2015年3月/6ヶ月間

■公募制：書類選考あり、スタジオ利用料/無料

（滞在計画展覧会企画案を添付して、3ヶ月前までに申し込み、選考、結果通知を受けとる。）

■条件：滞在中にトーク、交流会などを運営実施する。<=地域交流プログラム>企画内容をディレクターと協議の上、滞在中の制作、展覧会設営撤収までセルフマネージメント&ビルドで行う。国籍、居住地、年齢、性別、活動分野不問

<ローカルアーティスト・プログラム；公募>

札幌を活動拠点とするアーティストを対象に、3ヶ月間の滞在制作の機会を提供する。

■3名（組）■利用期間：2014年10月～2015年3月/6ヶ月

■公募制：書類選考あり、スタジオ利用料/無料

（滞在計画などを添付して、1ヶ月前までに申し込み、選考、結果通知を受け取る。）

■条件：札幌拠点で活動していること。滞在中にトーク、交流会などの企画運営に協力する。<=地域交流プログラム>滞在中の活動・企画内容をディレクターと協議の上、セルフマネージメント&ビルドで行う。

■協力団体（候補）：北海道芸術学会など

<スキルエクステンジ・プログラム：国際公募>

アーティストのユニークなスキル（知識、経験、技能）を活かした交流プログラムを企画実施することで、一週間の滞在スタジオ利用が可能になる。

■月4名（組）/合計32名（組）

■公募制：書類選考あり、スタジオ利用料/無料

■利用期間：2014年8月～2015年3月/6ヶ月間

■条件：1週間滞在し、利用者向けのワークショップ・講座を2h/1回を滞在中に企画実施する。<=地域交流プログラムに（企画提案を添付して、1ヶ月前までに申し込み、選考、結果通知を受け取る。）

コーディネーターと協働の上、ワークショップ・講座、交流会などを運営実施。国籍、居住地、年齢、性別、活動分野不問。

<ゲストスタジオ・プログラム：推薦>

国内外のアートセンター、大使館、文化機関、大学など、AISプランニングがプログラム提携する機関・団体から活動費の助成を受けたアーティストが滞在スタジオを利用する。

■3機関・団体各1名（組）/3名（組）以上

■利用期間：2014年10月～2015年3月/6ヶ月間

■滞在期間：1-3ヶ月（提携内容、条件による。）

■スタジオ利用料：有料（提携機関・団体の負担）

■滞在中にトーク、交流会などの企画運営に協力する。<=地域交流プログラム>滞在中の活動・企画内容をディレクターと協議の上、セルフマネージメント&ビルドで行う。

■提携団体（候補）：BankART1929（横浜）、3331アーツ千代田（東京）、P3 art and environment（東京）など、詳細は「広報」欄参照

企業又は 団体名	一般社団法人 AIS プランニング
-------------	----------------------

◆ 市民がアーティスト等と交流する機会及び芸術作品に触れる機会

より(i)どこオノベカ(札幌市中央区山鼻地区)の活動コンセプトと同様に地域や地域に暮らす人々に対し、「遊び=未来を作る!」をテーマに「生きがい」を持って生活する為のきっかけを生み出し、様々な目的を持って集い交流する場として利用されること目指し、より多くの地域の人々に利用を促します。

特にこの施設の特徴である多彩な分野のアーティストの滞在という特異性を活かし、時にはアーティストと協働して子どもからお年寄りまで、あらゆる世代の方々が、楽しみ、学び、遊べる場とプログラムを提供します。アーティストにとっての地域の人々との交流は、ユニークな風土、歴史のある北海道、札幌の文化をダイレクトに学び受け取る機会になるため、交流プログラムは、自身の新しい思考や作品のアイデア、リサーチのてがかり、技術の獲得といったアーティストの創造活動にとってきわめて有意義な手段となります。

<市内の芸術文化事業との連携>

札幌国際芸術祭(SIAF)を始めとする札幌及び北海道を拠点に置く芸術文化事業運営団体に、さっぽろ天神山アートスタジオを主に招聘アーティストの滞り場所としての利用を促進する活動を行う。

<SIAF>特にSIAFの参加アーティスト及び関係者の利用による、札幌ローカルとの日常的な接点づくりは、SIAF事業の波及効果を高めるSIAFへの参加の促進作用となる。また、ローカルアーティストによい刺激となる。SIAF参加に支障をきたさない範囲での、交流会、トーク等の実施を事務局と協議の上、実施する。

札幌市内の連携する団体にとって、さっぽろ天神山アートスタジオを利用することで、予算の軽減につながり他の予算項目に資金をまわすことが可能になり、より多くのアーティスト招聘機会を増やすことも可能になる。アーティストの滞在場所がさっぽろ天神山アートスタジオに集約されることで、各団体が招聘するアーティスト同士、事業運営者同士にも活動分野を超えた横のつながりが発生し、新たな活動や事業の展開を促す機会となる。また利用するそれぞれの招聘アーティストにとっては、さっぽろ天神山アートスタジオを利用するほかのアーティストとの交流から自身の創作活動の精査や質の向上を得ることができる。結果的に札幌市内で開催される芸術文化事業の質が高まる事につながり、事業の受け手となる市民への還元に寄与する。

招聘元の団体による滞在のコーディネート、アテンドの元で利用する(7月~3月/9ヶ月間)

○滞在期間:1日~3ヶ月

○1ヶ月前までに申し込み、選考、結果通知

○滞在中にトーク、講座、交流会など施設利用者を対象にしたプログラムを招聘元の協議の上、実施したい

主な連携団体(候補):札幌国際芸術祭実行委員会、npof法人S-AIR、CAI現代芸術研究所、500m美術館実行委員会、北海道芸術文化学会、札幌国際短編映画祭実行委員会、npof法人コンカリーニョ、公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会、公益財団法人北海道演劇財団、公益財団法人北海道文化財団、市内道内のギャラリー、アートスペース、大学、札幌市市民文化課の「おとどけアート事業」、札幌市保健福祉局の「元気デザイン向上事業」など札幌市の事業、等

<アーティスト・イン・レジデンスと運動>

① アーティスト・イン・レジデンスプログラム実施計画に対応する、ワークショップ、トーク、講座など

*「アーティスト等の滞在制作活動の誘致及び支援」のプログラムを参照ください。

○回数:45回以上(概ね月に5~6回実施)

アーティスト歓迎会、送別会

(滞在スタジオに1ヶ月以上利用アーティストに係る)

○回数:13回以上

② 滞在スタジオの見学案内

○回数:見学希望は随時受け付け、週3回以上

③ 情報共有と公開のしくみ

1) インフォメーションボードの情報更新:滞在スタジオ利用のアーティストの紹介(毎日)

2) Guest Bookの作成:滞在スタジオ利用アーティストのファイルをアーカイブとして整理、公開する。

3) Tenjinyama Diaryの作成:ブログの情報発信

<交流のしくみづくりとイベント>

① アートによる地域活性化事業

○回数:2回以上/2事業

*「アートによる地域活性化事業」の事業案を参照ください。

② あさごはん、ひるごはん、おさんじの会

ディレクターが同席して、だれでも参加できるオープンミーティングをしながら、朝食、昼食、おやつをいっしょに取る。

○頻度:週3回程度

③ ご近所ガイド作成のためのリサーチ

駅から施設への近道、公共交通機関の利用方法、買い物ガイド、商店街や周囲環境、相談員:相談ショップ認定など。天神山緑地、地域についての勉強会、町歩きイベントご近所の方に講師になってもらうカジュアルな講座の実施可能性。調査期間:2014年5月~8月

④ 札幌市内、近郊への滞在スタジオ利用アーティストとのエクスカージョン(2014年10月から随時)

○頻度:月1回程度

<期待される地域からの持ち込み企画や提案>

さっぽろ天神山アートスタジオの貸出しスペース、共有スペースを使って自主的な企画を実現してみたいという地域の人々によるプログラム。マネージャー、コーディネーターと企画内容等詳細を相談の上、実施する。

① ギャラリースペース、共有スペースを使用した展示会、発表会、趣味講座

○頻度:月1回程度

② 懐かしい天神山国際ハウスイベントの復活(音楽家によるミニコンサート)

○頻度:3ヶ月に1回程度

③ 近隣の託児所、幼稚園、保育園、学校からの持ち込み企画の実施

○頻度:週3回程度

◆アートによる地域活性化事業

1) 学校からはじまるまちづくり～街を子どもたちのステージへ！

<アーティストの選定>

当団体が企画・コーディネートしているアーティスト・イン・スクール事業（おとどけアート事業）や、これまでの活動の中から、本事業に親和性が高く、目的を共有できるアーティストを1組選出する。

<内容>

天神山アートスタジオに滞在するアーティストが、市内の「学校（主に小学校）」を活動の拠点にしながら、地域の様々な状況（特徴や課題）を探り、商店街や町内会など地域固有の共同体が育むお祭りや行事と連携しながら、地域に暮らす子どもたちが主体的にまちづくりに参画できる仕掛けを考案、実施する。また、アーティストと地域住民が協働する中で、地域独自の風習を育み発展させていく現状の担い手を発掘するだけでなく、地域が主体となって未来の担い手（子どもたち）を育て継承していく仕組みを構築していくことを目指す。

2014年度は、札幌市立山鼻小学校を拠点に、行啓通商店街や山鼻地域の町内会などと連携した活動を展開する。

<期間>

2014年10月～11月の内約3～4週間

<広報>

マスコミへのプレスリリース、広報さっぽろ、町内会回覧板、学校便り、瓦版、ホームページ、ブログ、SNSの活用、フライヤー、ポスターの配布

<協力・連携・支援団体>

- 札幌市立山鼻小学校／行啓通商店街振興組合
- 山鼻地区町内会連合会／曙地区町内会連合会
- 山鼻児童館
- あけぼのアート&コミュニティー
- おとどけアート実行委員会
- 公益財団法人福武財団
- 札幌市／札幌市教育委員会 他



参考画像：アーティストと子どもたちの活動風景
札幌市立山の手南小学校／アーティスト：野上裕之



参考画像／学校を拠点とした地域行事「雪の花火大会」
札幌市立山の手南小学校／アーティスト：河田雅史
*2008年から現在も同様のイベントが継続中



参考画像／商店街でのアート活動「夜のまち歩き」
香川県観音寺市／アーティスト：OMOCHI
*2011年から現在も同様のイベントが継続中

2) Sapporo2 天神山こどもの国 ～雪の遊びをできるだけたくさんつくる～

<アーティストの選定>

2006年から札幌市で開催されている「札幌の雪と雪がふることを考えるアートプロジェクトSapporo2」の主旨に賛同でき、さっぽろ天神山アートスタジオでの滞在制作とワークショップ企画実施を条件とする国際公募で1名を選出。加えて札幌を拠点とする雪をテーマに活動をする札幌拠点のアーティストが複数名自主的に参加する。

<内容>

札幌市の教育目標である『環境・読書・雪』から、雪を取り上げ、さっぽろ天神山アートスタジオのメインターゲットでもある子どもの活動にフォーカスする。子ども向けの安全な除雪講座の実施。また、アーティスト、雪をテーマに活動するNPO団体、子どもたちとの3者で雪の遊び場をワークショップベースで考え、実際に天神山緑地の中に造作する。アイデアと作り方、使用感などをセットにした「雪の遊び方ハンドブック（仮）」を活動アーカイブ、オープン・アイデア（だれもが自由に使う事のできるアイデア）として作成し、インターネット上で公開、共有する。交流会、講座、ワークショップの企画運営は、これまでも協力関係にある連携・支援団体と協働する。

<期間>

2014年1月11日～2月22日の週末のみ実施/ 交流会1回及び、2日間のワークショップを6回

<広報>

マスコミへのプレスリリース、広報さっぽろ、町内会回覧板、学校便り、瓦版、ホームページ、ブログ、SNSの活用、フライヤー配付

<協力・連携・支援団体（予定）>

- Sapporo2 Project実行委員会／雪プロジェクト
- NPO法人北海道スポーツコンシェルジェ
- スノースマイルジャパン（北海道大学）
- Snow Links Sapporo実行委員会／雪ドリ部（オオドオリ大学）他



